



つなぐちゃんベクトル

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会社内誌 臨時増刊 299号 2011.3.17 発行 社会政策研究所

=====

去年10月、全日本手をつなぐ育成会の全国大会のメイン会場となった福島県郡山市のビッグパレットが、3月16日、福島原発の事故による富岡町と川内村の住民の強制避難所になりました。全国大会に参加したみなさんは、あの巨大な会場がイメージできると思います。【kobi】

苦渋の大移動 県内避難所、満杯

福島民報 2011年3月17日

地震と津波を受けた東京電力福島第一原子力発電所の放射能漏れが続く16日、浜通りの被災者の大移動が加速した。中通りや会津に設けられた避難所は一部を除いてほぼ満杯の状態に。避難所を転々とする被災者が多く、受け入れる各地の避難所の担当者は対応に追われた。被災者自ら避難所運営に協力するケースも。避難生活が長期化する中、介護が必要な患者や1人暮らしの高齢者に対する一層のケアが必要になってきている。

富岡町と川内村は住民の安全のため、同村に設けた合同災害対策本部が「強制避難」を決断。16日朝から約5000人の町村民が郡山市のビッグパレットふくしまなどに移った。

ビッグパレットは地震による被害を受けたが、職員らが急きょ、受け入れ態勢を整えた。バスなどで到着した住民は早速、スクリーニングを受けた。

富岡町の会社員男性(48)は「持病がある父の薬も手に入らなくなり、見捨てられた感じがしていた。ほっとした」と疲れ切った表情で話した。

約2500人が避難している福島市のあづま総合体育館は満杯状態が続く。避難者が施設に無断で知人らを入所させるケースが相次いだ。施設管理者は16日から入所者全員の腕にペンで印を付け、印のない人は館内に入れない対応を取った。

浪江町津島地区周辺の避難住民を受け入れる二本松市には約3500人が移動した。約700人が入った旧針道小の避難所は避難住民のボランティアが入所者の名簿づくりを担う。ボランティアの一人、とび職若山雅盛さん(59)は「町職員があまりに忙しそうなので手伝おうと思った。こんな時だからこそ、助けを待つだけではだめ」と話した。

会津若松市はあいづ総合体育館で受け入れていた。河東総合体育館にも開設。主に浜通りから約320人が入った。二本松市から来た浪江町の会社員川久保年子さん(39)は「原発からできるだけ離れようと来た。ここにも、いつまでいられるか」と話した。

白河市の白河中央中体育館に避難しているいわき市の会社員杉田洋一さん(55)は妻の実家がある川崎市に向かっていたが、途中で道路渋滞と燃料不足のため変更したという。

衛生面でペット避難所に入れず

避難所には建物に入れることができないペットを抱え、乗用車内などで寒い夜を過ごす被災者が出ている。

避難所の一つ、福島市のあづま総合体育館の職員は「衛生面などの問題からやむを得ない」と話す。市内の福島高に避難する南相馬市の藤岡由伊さん(15)のペットはネコ。夜は母親が車内で一緒に寝ている。「家族も同然なのに…」と話した。

<被災地の育成会の様子 入手部分のみ>

青森県の育成会ブログから (3/14)

青森県内のライフラインは少しずつ回復しつつありますが、物流がストップしているので、物資不足が悩みです。

特にガソリンを入れるのに、何時間も並んだり

スーパーの棚が空になったり・・・

在庫がなくなるのが不安で不安で仕方がないですよ。

きっと他の地域も同じ感じだと思います。

このようなガソリン不足や

交通機関の復旧の見通しが見つからない為、

青森県育成会は3/17に予定していた

評議員会を3/25に延期することにしました。

また、食料不足のため、

2、3日お休みにする施設さんもあるようです。

宮城県の育成会ブログから (3/15)

県の事務局では現在、地域育成会の状況確認をしております。

電気も55%復旧してきているようですが、まだまだ

仙台市近隣地区以外は対応が遅れているようで、

連絡が取れません。

昨日、被災が大きかった名取市、岩沼市に行ってきました。

名取市は市役所、みのり会、名取市の育成会の会員さん

のお宅に伺ってきました。

名取市役所は混在しており、入口にはたくさんの安否

確認の張り紙がしてありました。市役所内で安否確認

して抱き合っている人がいらっしゃいました。

張り紙の中にみのり会の情報があつたので、伺ってきました。

るばーとは海のそばなので、やはり浸水してしまった

たそうです。非難がはやくできたそうで、利用者さんたちは

みな無事です。職員の方々も車を流されてしまった方がいる

ので、来れる人で調整してみんなで頑張っていきますと。

岩沼は理事の山田さんが自宅浸水したそうです。

現在はお子さんの家に待機してらっしゃるそうです。

岩沼は避難してる方が多いのか、町の中に人があまり

歩いていませんでした。電気は復旧した地域もあるよう

です。岩沼高等学園にも行ってきました。先生達が泊りで

走り回っていました。

仙台市の育成会はこぶしと花梨は施設の安全が確認

できないそうで、今後の判断になるようですが、他の施設

は現在、施設を職員が点検している状況だそうです。

開始時期は施設から連絡が入るそうです。

その他、富谷町、泉、多賀城、大和町とは連絡が取れました。

他はまだ状況確認できておりません。

以上、状況が確認できましたらこちらに掲載していきたい

と思います。

宮城県肢連 岩崎会長 無事確認 事務局機能（仙台市内）無事 太平洋岸安否不明
 各単位会毎への連絡を取りはじめ、会員の安否確認作業中
 岩手県肢連 今野会長 無事確認 事務局（盛岡市内）無事 太平洋岸連絡不通
 福島県肢連 照山会長 無事確認 浜通り方面会員の安否不明
 青森県肢連 奥田会長 無事確認 事務局（弘前市内）無事 太平洋岸安否不明
 その他の東北、北関東の県肢連からの安否報告もいただいています。
 被災された方におかれましては、一日も早くご回復される事をお祈り致します

介護ベッド「停電前は水平に」- 計画停電対応で注意喚起

キャリアブレイン 2011年3月17日

東日本大震災に伴う東京電力の「計画停電」を受け、日本福祉用具供給協会はこのほど、電動式介護ベッドの利用者に向けてホームページ上で注意喚起した。メーカー各社とも「停電前には床平面を水平にする」などを求めている。

停電時は動作ができなくなるため、パラマウントベッドでは、安全の確保などで停電前に背上げや脚上げ機能がある床平面を水平の状態にし、昇降機能を一番低い状態に下げることが推奨している。また、停電の復旧時の通電が故障の原因になることもあるため、停電前に電源プラグをコンセントから抜くよう求めている。フランスベッドでも同様に注意喚起している。

エアマットのケーブルは、停電時にエアマットから空気が少しずつ漏れ出すため、送風チューブをポンプから外さずに、送風チューブの途中を折り曲げてクリップや輪ゴム、テープなどでしっかりと留めた状態にするよう求めている。

東北向け食品配達できず寄贈

中国新聞 2011年3月16日

原田社長（左）から寄贈品を預かる福崎理事長（右）



福山市鞆町後地の水産加工ウオヒサは15日、東日本大震災の影響で東北地方に発送できなくなった天ぷらやちくわの詰め合わせ120箱を、障害者福祉施設を運営する市内の社会福祉法人2団体に寄贈した。

寄贈品は宮城、福島など東北6県の個人から受注していた。瀬戸内産の小魚を使った天ぷらなど10種を詰め合わせている。地震で東北地方への商品配達が可能となり、焼却処

分する予定だった。

同社の原田隆史社長(62)は、府中市のタケダフーズとNPO法人「わいわいがやがや」が規格外食品を福祉団体に無料で配る活動に取り組んでいることを新聞報道で知り、協力を求めた。

同NPO法人の福崎裕夫理事長(55)が15日にウオヒサ本社で寄贈品を預かり、福山市の福山すこやかセンターで創樹会と「ゼノ」少年牧場の職員に引き渡した。

たまには太陽の子・手をつなぐ、たまにはつなぐちゃんベクトル、たまにブログたまにはチェック



大阪市天王寺区生玉前町 5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行